

令和2年度 事業報告書

I 概要

「高岡市総合計画第3次基本計画」では、「豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる『市民創造都市』高岡」というまちの将来像に向け、「歴史・文化」分野において、めざすまちの姿を「暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている」まちとして掲げている。

これを踏まえ事業団では、地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成に向け取り組みとともに、各文化施設等が市民に有効に活用されるよう、事業団独自のノウハウやネットワークを活かし、利用者ニーズに沿った施設管理と事業展開に努め、高岡市の芸術・文化の振興に貢献する。

○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

令和2年度は、万葉歴史館・美術館・博物館・文化芸能館・ミュゼふくおかカメラ館・動物園の6施設の第4次指定管理協定期間(平成29年度～令和3年度)の4年目になり、平成28年度更新した二上まなび交流館(平成28年度～令和2年度)を含め計7施設の管理運営を行った。藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーについては、引き続き業務を受託した。

各文化施設等が利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期すとともに、利用者のニーズに沿った施設管理と事業展開に努めた。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、高岡市からの要請により、4月から5月にかけて、万葉歴史館をはじめ各施設を臨時休館としたが、それぞれ基本的な感染予防対策を徹底したうえで順次通常営業を再開した。

二上まなび交流館は、9月末で営業を終了し、令和3年3月末をもって指定管理期間の満了とともに閉館となった。

II 各施設の事業内容

1 事務局事業(文化振興事業)

高岡市芸術文化団体協議会・高岡市美術作家連盟による「第50回高岡市芸術祭」は、新型コロナウイルス感染症対策の観点並びに記念に相応しい全体プログラム構成が保てないことから、テーマ「煌めき」はそのままに新年度の延期開催を決定した。また、芸団協自主事業の「夏のわくわくワークショップ2020」「青少年わかば公演(第9たのしい子どもおどりの会)」は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止とし、市内小学児童を対象とする「おでかけ公演・講座」は各校からの要望を受け、感染症対策を講じて実施した。

「ユニークベニューTAKAOKAプロジェクト」事業は2年目を迎え、高岡CATV協力による無観客収録・放映の実施や、9月より感染症対策ガイドラインに基づいた有客ステージを再開した。

北陸最大の音楽イベント「風と緑の楽都音楽祭」中止決定に伴い、「TAKAOKA春の音楽祭」を全公演中止したが、須川展也(サクソフォン)公演及び雅楽公演2公演を「TAKAOKA冬の音楽祭」と題して延期開催し、地元吹奏楽部生や雅楽ファンに好評を得た。

教育普及事業「未来へ繋ぐ舞台鑑賞事業」では、小学4年生児童対象のオーケストラ公演「10才のファーストコンサート」の中止、小学6年生児童対象のミュージカル公演

「劇団四季〜こころの劇場」は3年度まで中止となった。なおオーケストラ公演は体験できなかった新5年生を含めた2学年を対象に、新年度の開催調整を進めている。

Wing*Wing×Classic シリーズでは客席50%収容等による感染症ガイドラインに基づき、第1弾・指揮者・藤岡幸夫率いる弦楽カルテット「The 4 Players Tokyo」は急遽1日公演を2日間2公演で調整開催した。第2弾「藤田真央ピアノリサイタル」では、3度の延期調整を重ねて開催し、世界のレベルを感じる迫力の演奏で満席の観客を魅了した。第3弾・高岡市出身・広田泉とマーセル・ランドによる「ヴァイオリンデュオリサイタル」は、両氏の米国からの渡航が困難として中止した。

宝くじ文化公演「オーケストラ・アンサンブル金沢 with 石丸幹二」では、県内在住者限定チケット販売など新たな感染症ガイドラインに基づき開催した。指揮者・鈴木織衛のトークや石丸幹二の歌、壮大なオーケストラの響きが満席の観客に感動を届けた。

高岡市民会館ホールサポーターの会「パープル」は設立20周年を迎え、記念公演のCATV協力による無観客収録・放映の実施やサロンコンサートの継続と事業課事業の表方をサポートした。

2 事務局事業（生涯学習事業）

市民の生涯学習及び交流の場を提供し、本市における生涯学習の振興を図るため、さまざまな事業を実施した。

生涯学習センター講座開設事業では、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、「万葉の鳥の歌」、「高岡の歴史は面白い」、「前田家のまちづくりと町民文化」をはじめとした多彩な自主講座や、県内の大学と連携して実施する専門的な講座、小中学生を対象とした能楽講座等を開催した。

リトルウイングにぎわい創出事業では、「SONGS LONG VACATION」及び「街角クラシック（全3回）」を開催し、好評を博した。

3 万葉歴史館事業

万葉歴史館では、『万葉集』や越中万葉をテーマとした展示や学習講座等を開催し、「万葉のふるさと高岡」と『万葉集』の魅力为全国に向けて発信した。

展示機能では、企画展示は、前年度に引き続き「越中国と万葉集」を開催した。開館30周年記念 春の特別企画展「万葉写真展」では、万葉を素材とした館蔵写真を中心に紹介した。開館30周年記念 秋の特別企画展「山口千代子 万葉衣装展」では、古代衣装研究家の山口千代子氏が製作した万葉びとの衣装を、珠玉の万葉歌とともに展示し、万葉時代の歌世界を紹介した。開館30周年記念 特別展示「万葉のふるさと高岡 フォトコンテスト入賞作品展」では、「家持の越の海2」をテーマに募集した作品の中から入賞作を中心に展示した。

教育普及機能では、例年実施している高岡万葉セミナーは「万葉の受容」と題して開講を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。学習講座は、館長講座「『日めくり万葉集』を読む」・「万葉集をよむ」・「古代への招待」・「大伴家持とともに」と、出前講座の「はじめての万葉集」（会場 高岡市生涯学習センター）を前年度に引き続き開講した。臨地研修型の講座の「第8回越中万葉ウォーク」、「第6回歌枕を訪う」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。また、富山大学での研究員による万葉集に関する講義等を通して、学生に越中万葉への関心を抱かせ、より親しんでもらえるように取り組んだ。

調査・研究・情報収集機能では、万葉歴史館の研究の成果を紹介する『高岡市万葉歴史館紀要 第三十一号』を出版した。

観光・交流機能では、毎年春と秋の連休に開催している「万葉衣装体験」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。万葉への魅力向上を期して、来館者に対しては、親しみやすくボランティア「和草」(説明員)が、学校や団体客等に対しては、研究員自らが案内をした。

他館・地域等との協力では、万葉歴史館 ラウンジを会場とした「国分寺薬師堂仏像調査報告会・パネル展」等が実施され、当館の利用促進につながった。

4 美術館事業

美術館では、郷土の美術・工芸の研究成果を収集・保存・展示に生かし、美術館活動の普及のために広範な教育活動を行っている。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、一部展覧会の中止や規模縮小など、年間を通して様々な影響があった。一方、コロナ禍において「おうちで美術館を楽しむ」企画として、クイズや美術品の塗り絵を作成し、公式ホームページや SNS で発信するなどの工夫も行った。

4月から6月にかけて企画展示室3で開催した「コレクションにみる 高岡の金工・漆芸」は、当初予定していた会期を2週間程度延長し、美術館所蔵の金工・漆芸の名作を展示、地域の工芸の優れたわざと歴史について紹介した。

7月から8月にかけては、「歌川広重 二つの東海道五拾三次」を開催した。本展は、モネやゴッホにも影響を与えたとされる、世界的に有名な浮世絵師・歌川広重の代表作「東海道五拾三次」の「保永堂版」と、約15年後に出版された「丸清版」、そして大正時代に撮影された宿場町の写真と併せて約150点を展示した。同じ宿場を描きながら、構図や色遣い、季節などが大きく異なり、見比べることで広重の豊かな表現力を感じられる展覧会となった。感染予防対策を徹底しての開催には様々な制約もあったが、大きな混乱もなく、多くの来場者に鑑賞を楽しんでいただく事が出来た。

9月から10月にかけては「傘寿記念 大澤光民の世界一人間国宝としての歩み」をチューリップテレビとの実行委員会により開催した。本展は、現在県内唯一の重要無形文化財保持者(人間国宝)である大澤光民氏が、人間国宝として歩んだ15年を含む作品の多彩な技と表現を紹介し、好評を得た。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでは、まんが原画の展示を通じて、幅広い世代に先生のメッセージを伝え、藤子・F・不二雄先生の作品を身近に感じていただき、理解を深めた。

企画展示では、7月21日～令和3年2月28日の日程でドラえもん50周年記念「学年別ドラえもん展 -のび太と一緒に大きくなった私たち-」(後期)を開催した。

令和3年3月4日から5周年記念原画展「ゲラゲラ笑える話」を開催している。

5 博物館事業

展示事業としては、昨年度から継続して7月まで館蔵品展「昔の道具とくらし」を開催し、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した。

常設展「高岡ものがたり」(通年開催)では、高岡の歴史・民俗・伝統産業の分かりやすい紹介に努め、団体見学への展示解説等を行った。常設展の内「お宝コーナー」では、「博物館の開館と高岡 -昭和40年代の収蔵資料-」、「林忠正三兄弟宛の西園寺公望書簡」、「まだまだあります!高岡のお宝」、「堀川敬周筆、二つの《漁樵図屏風》」、

「またまた発見！ 渋沢栄一書簡」（次年度4月11日まで開催予定）を順次開催した。

また、8月から開始した開館50周年記念特別展「高岡のお宝展」では、令和2年（2020）の開館50周年を記念して、当館がこれまで収蔵してきた高岡に関する資料のうち厳選した「お宝」を展示・紹介した。

11月から開始した館蔵品展「高岡ゆかりの屏風」では、高岡初の町絵師・堀川敬周（1789頃～1858）が描く《牡丹に孔雀図屏風》等2件の新発見資料をはじめ、未公開資料を含めた当館収蔵の高岡ゆかりの屏風を展示・紹介した。令和3年2月から開始した館蔵品展「昔の道具とくらし」では当館収蔵の古い生活道具「民具」を展示した。特集展示コーナーでは、近年収蔵された初公開の古い消火器や火消装束等の消防関係資料を展示・紹介した（次年度7月11日まで開催予定）。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座（全3講）、当館職員による特別展講演会（1回）、古文書講座「初めての古文書教室」（全6講）を開催した。また、呈茶の会「松聲庵 一博物館で抹茶を楽しみませんか」（春・秋）を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により開催を見合わせた。そのほか、各種団体への講師・委員の派遣協力、監修、寄稿なども行った。

資料収集・保存活動では、高岡の歴史・民俗・伝統産業にかかる資料の収集・保存に努めた。

調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組んだ。また、「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要有形民俗文化財指定にかかる当館所蔵の鋳物資料調査を行いながら、これまでに調査が終了した資料台帳の内容を精査し、当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、935件の資料情報をネット公開している。

6 文化芸能館事業

令和2年4月より名称が高岡市文化芸能館となった。

諸室の貸与では、13室の貸室があり、3階の能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能に活用されている。

また、1・2階の研修室等では市民の学習・文化活動・芸能活動・各種会合等で利用されている。

新型コロナウイルスの影響（コロナ禍）により、利用者数は半減し、利用料収入も目標額の約6割となった。

7 ミュゼふくおかカメラ館事業

当年度は、当館が開館20周年を迎えることから、それを記念する企画写真展を実施してきた。夏季には、高岡市福岡町出身の写真家 木原盛夫による「とやま、祭り彩時季」を開催した。コロナ禍の影響を受け県内の様々な祭りが自粛される中、県内全域の数多くの祭りや神事を紹介し、当たり前と思われていた日常生活の豊かさについて考える機会となった。冬期は富山市在住の写真家 高野裕輔による「ツギノ間」を開催した。斬新な展示空間の活用や映像を組込んだ作品の構成は、印象的で興味深い内容となった。中西学写真展「躍動」では、歴史都市高岡が育ててきた文化の美しさと、受け継がれてきた高岡職人の心意気が写し撮られた数多くの作品が飾られた。年度の最終に星野佑佳による「絶景恋愛」を開催した。今回のために撮り降ろされた雨晴海岸の早朝を記録したタイムラプス映像など「アート作品」とも称される美しい作品を展示した。

カメラコレクション展示事業では、「BIRTH YEAR NIPPON CAMERA」を開催し、1950年を起点に2000年まで発売されたカメラの中から、当時の話題になったカメラを厳選し当時の出来事を交えながら、カメラの魅力を解説した。

また、新型コロナウイルスの影響による事業収入減少の緩和と事業支出削減のため「伊勢神話への旅」は会期を延長し、「岩合光昭写真展」「パラアスリート写真展」「ワンダーフォト写真展」は延期とし、年度全体で会期調整を実施している。

8 古城公園動物園事業

動物園では飼育展示のほか、ふれあい広場、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

「ふれあい広場」は、ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができ、来園者から好評を得ているが、本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

レクリエーション施設としての機能はもとより、情操教育の場および環境保全への貢献のために、動物愛護の啓発や情報発信、種の保存に努めた。

9 二上まなび交流館事業

主催事業としては、感染症拡大予防のため、5月の「春の二上山を楽しもう」を中止とし、6月の「野外料理を楽しもう」を9月に延期とした。「野外料理を楽しもう」では、当初2回に分けて実施する予定としていたが、応募者多数により、3回に分けて実施した。感染症対策に取り組みながらの開催となったが、参加者には塩釜料理やパン作りなど、多様な野外料理を満喫してもらった。

県委託事業の「夏合宿こども冒険塾」については、主催する青少年育成富山県民会議より感染症拡大予防のため中止とすると判断された。

まなびっこクラブ事業は、感染症拡大予防のため、当初4月からの予定を6月からの開講とし、ペン習字、茶道、箏、科学工作、卓球の5クラブ事業を実施し、技能の向上と共にクラブ員同士の友情を深めた。なお、9月の最終回には保護者にクラブ員の成果発表の場を設けると共に、クラブ毎に閉講式も行った。

館内に事務局が入居しているボーイスカウト高岡地区協議会、ガールスカウト高岡地区協議会、高岡市児童クラブ連合会の各団体との共催事業としてフィナーレ事業「まなびっこフェスティバル」を9月に開催予定としていたが、各団体と構成している実行委員会により、感染症拡大予防等のため中止とした。

コロナ禍により例年のような学校教育団体や社会教育団体、企業団体等の利用は極めて少なかったものの、感染予防を徹底した上で事業実施や利用団体の受入れに努めた。

なお、まなび交流館における公益目的事業の利用は、主催事業や学校団体、スポーツ少年団活動など56回で、利用人数は2,077人であった。

一方、収益目的事業の利用は、研修室等の一般への貸与など25回で、利用人数は254人であった。

Ⅲ 評議員会に関する事項

1 審議内容

第19回評議員会 令和2年5月29日開催(書面によるみなし決議)

報告第1号 令和元年度事業報告について

承認

議案第1号 令和元年度決算の承認について

可決

議案第2号	理事の選任について	可決
議案第3号	監事の選任について	可決
※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「決議の省略」による方法で行った。		

2 評議員の異動状況

令和2年5月29日	評議員	荒井 公夫	就任（再）
	評議員	石丸 昌之	就任（再）
	評議員	江沼 修	就任（再）
	評議員	小林 福美	就任（再）
	評議員	高橋 誠一	就任（再）
	評議員	竹内 浩子	就任（再）
	評議員	樽谷 雅好	就任（再）
	評議員	野崎 昭雄	就任（再）
	評議員	広野 薫	就任（新）
	評議員	山崎 健	就任（再）

※任期：令和6年5月定時評議員会の終結の時まで

評議員 大澤 幸勝 退任

IV 理事会に関する事項

1 審議内容

- | | | |
|--------------------------------------|---|----|
| (1) 第46回理事会 | 令和2年5月13日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第1号 | 令和元年度事業報告の承認について | 可決 |
| 議案第2号 | 令和元年度決算の承認について | 可決 |
| 議案第3号 | 第19回評議員会の招集について | 可決 |
| 報告第1号 | 代表理事と専務理事の職務執行状況について | 承認 |
| ※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「決議の省略」による方法で行った。 | | |
| (2) 第47回理事会 | 令和2年5月29日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第4号 | 理事長(代表理事)の選定について | 可決 |
| 議案第5号 | 副理事長(代表理事)の選定について | 可決 |
| 議案第6号 | 専務理事(業務執行理事)の選定について | 可決 |
| (3) 第48回理事会 | 令和2年9月29日開催(書面によるみなし決議) | |
| 議案第7号 | 令和2年度補正予算(第1号)の承認について | 可決 |
| (4) 第49回理事会 | 令和3年3月25日開催 | |
| 議案第8号 | 令和3年度事業計画の承認について | 可決 |
| 議案第9号 | 令和3年度予算の承認について | 可決 |
| 議案第10号 | 「公益目的事業」及び「その他の事業(相互扶助等事業)」
の内容変更(削除)による変更認定申請について | 可決 |
| 報告第2号 | 代表理事と専務理事の職務執行状況について | 承認 |

2 理事、監事の異動状況

(1) 令和2年4月1日

(2) 令和2年5月29日

理事	鶴谷 俊幸	就任
理事	小栗 久雄	就任 (再)
理事	川西 邦夫	就任 (新)
理事	坂本 信幸	就任 (再)
理事	高野 武美	就任 (再)
理事	高橋 正樹	就任 (再)
理事	武山 良三	就任 (再)
理事	辻 やす子	就任 (再)
理事	鶴谷 俊幸	就任 (再)
理事	氷見 哲正	就任 (再)
理事	蓑 厚行	就任 (再)
理事	村上 隆	就任 (再)

監事	小竹 秀子	就任 (再)
監事	堂故 真二	就任 (再)

理事長	高橋 正樹	就任
副理事長	氷見 哲正	就任
専務理事	高野 武美	就任

理事	永田 義邦	退任
----	-------	----

※理事の任期：令和4年5月定時評議員会の終結の時まで

※監事の任期：令和6年5月定時評議員会の終結の時まで